



住民自らが地域性を再認識して生き残る 個性ある温泉地に



山村 順次

やまむら じゅんじ

千葉大学教育学部教授・日本温泉地域学会会長

1940年生まれ。東京教育大学大学院理学研究科博士課程単位取得（地理学）。主な著書に『日本の温泉地』（日本温泉協会、1998）、『世界の温泉地』（同、2004）他多数。

神奈川県温泉地学研究所ロビー展示パネル「世界の温泉」より

温泉は 治療の場として始まった

温泉地は療養の湯治場として発展してきました。例えば、湯畑のある草津温泉は強酸性の湯で、身体に良いということが、口伝えに広がりました。

しかし、草津の湯は47〜48度と温度が高く、浸かるにはかなりの忍耐を要しました。病気を治したい一心から熱湯に身を任せ、中には死者も出たといえます。このため、草津温泉にある光泉寺には無縁仏の碑が残されています。湯もみは、湯の温度を下げ、準備運動のために行なわれます。その際唄われる湯もみ唄は、大正以降に草津節として全国に広まりました。

江戸時代に、房総の百姓8名が村役人に「これから草津に40日間の湯治に行かせてください」という湯治願いを出した記録も残っています。

このように、温泉は天の恵みと認識され、まず療養の場として発展します。日本の温泉地にはよく祠がありますが、そこには松葉杖などが置いてありました。病人が何週間も湯治を続けるうちに良くなって、無用になった杖を奉納して帰ったわけです。

現在も、温泉は身体に良いとい

われていますが、仕事の都合などで長期滞在ができない場合もあります。1泊や2泊では、目に見える効果は期待できません。しかも温泉そのものだけでなく、気候や地形など、いろいろな要素が複合されて、効果が表れます。日常生活とは異質の場所に行くことが、気分を変える面もあるでしょう。

香川修徳は、1738年（元文3）に我が国初の温泉医学書『一本堂薬選統編』を著しました。この人も、温泉はまず「気を助ける」といっています。

このような複合的な効果は、人によって感じ方が違うし、証明しづらいものです。しかし、経験的には温泉は「良い」と思っています。今は温泉法で、「何に効く」と言っただけなのではないのですが、「こういう病気の人は入ってはいけません」と禁忌症については示すことになっています。

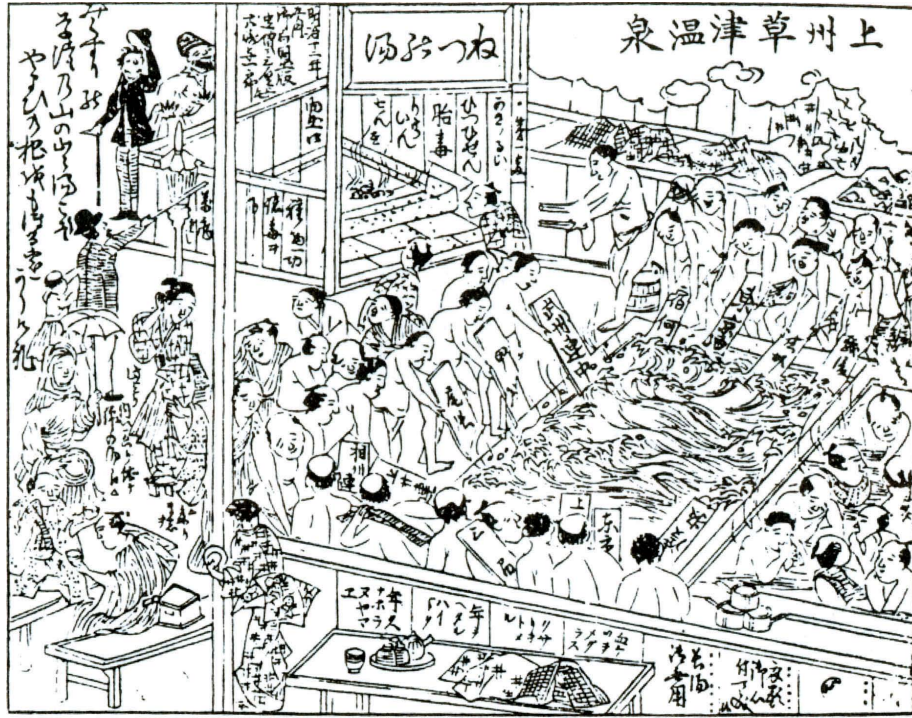
湯治期間は3週間

温泉地では、薬師堂をつくり、身体を守ってくれる薬師如来を祀りました。病人は滞在中、薬師如来を拜んで、湯治をしました。

昔は、滞在期間は3週間と決められていました。1452年（享徳元年）に『有馬入湯記』を記した京都・相国寺の僧瑞溪は、「一

そのドイツでは、どのように温泉が発展したのでしょうか。
18世紀のドイツでは、最初、王侯貴族が療養という名の下に温泉地に集まりました。有名な温泉地バーデンバーデンでは競馬が開催されたり、豪華なホテルも造られ、ヨーロッパの夏を中心になるくらいでした。
ところが、19世紀後半のフランスとの戦いで衰退したバーデンバーデンは、再び温泉の本質を見直し、病人が集まる療養地として発展します。心臓病やリュウマチなどの人々が集まるようになりました。

クアパークが観光地に
3週間の湯治期間は、明治以降日本が導入したドイツの温泉治療法でも同じです。



明治初期の草津温泉、熱の湯の「湯もみ」風景 (西川義方「温泉と健康1879」) 山村順次「日本の温泉地」社団法人日本温泉協会1998より

制度面で注目されるのは、戦後の旧西ドイツでは、温泉地療養に保険が使えたということです。保険料を払っている人は無料で温泉に行けました。ちよつと疲れたら医者で診てもらって、「温泉地に行くといい」と診断書を書いてもらう。実際に行ってみると、温泉地にも何十人もの温泉療養施設がいて、受診すると、「このようなメ

ニューで過ごしなさい」と指導されました。どんなメニューかというと、圧注湯、マッサージ、電流を流す湯、吸入、蒸気浴など、いろいろありました。起床時間から食事までプログラムは細かく決められています。
温泉治療施設はクアミッテルハウスと呼ばれ、医者がいる温泉施設です。その近くにクアハウスも

ありました。日帰り客を対象とした日本のクアハウスとは違って、滞在している人が憩う場所です。広大な森林に囲まれたクアパークの中に、ホールやレストランが整い、カジノが併設されている所もありました。
ところが、そのドイツでも1980年頃に再び転機がやってきます。公的補助は治療費のみになつて、温泉滞在費は自己負担に移行したり、滞在日数が制限されるようになりまし。すると、それまで多数あつた小さなホテルには客が来なくなり、大いに困りました。ここではじめて、彼らも観光に目を向け始めるわけです。
療養とはいっても、重病人が来るわけではありません。ですから、3週間もあると暇なときは近くの観光地を巡るツアーに参加したりしていたのです。90年ごろになると、私費で自分で好きな温泉に好きなだけ滞在するという形に変わってきます。
フランスでは、温泉は療養、保養が中心で、今でも国がしっかりと補助しています。お金の無い人には、交通費まで出るそうです。
ヨーロッパでは、基本的には温泉をそういう意味で大事にしてきて、温泉地が形成されました。温泉地にはクアディレクターという専門職があつて、地域観光の方針

を決めていきます。保険に頼らないで来てもらわなくてはならないため、ゴルフ場やプールをついたり、大きな露天風呂にスライダーつけて子どもたちに来てもらうように、そういう脱・療養施設に投資をしていると、以前ある温泉地のクアディレクターは話していました。
近郊リゾート地の誕生
一方、日本ではどうでしょうか。明治の終わりには、熱海に1週間も10日も滞在する人がたくさんいました。しばらくすると上流階級が別荘をつくり始め、そのころ登場し始めた中産階級の人々向けにも別荘が分譲されるようになります。温泉地が、農民や庶民が身体を治す場所から、商業地に変化してきたのです。
これに鉄道が整備されると、観光地へと変化するようになります。昭和の初めに小田急電鉄が箱根にロマンスカーを走らせました。これは、2人づつ前を向いて座るロマンスカーの「ロマンス」です。「週末はロマンスカーで箱根に来てください」というわけで、鉄道会社がプロモーションしたのです。
昭和の初期は、東京に近くて1泊や2泊で楽しめる場所が、観光地として賑わいました。伊香保は

近いけれど、草津はちよつと遠い。歴史ある温泉地でも、東京からの交通手段の有無と距離で、明暗が分かれました。大阪近郊では、有馬温泉と白浜温泉が発展します。

別府はもとほ外湯を中心としていましたが、明治期にちよつと掘ったら湯が出るという湯脈が見つかったて、みんなが温泉を掘り始めました。明治の末には大分県が掘削の禁令を出すほどに何百も掘られました。外部から旅館経営に参加する人々が入ってきました。特に愛媛県あたりから来る人が多かったといひます。

四国や中国地方は温泉があまり無かつたので、みんな船に乗って別府に療養に來ました。別府が温泉場として発展したのは、このよつな背景があります。



熱海は、むしろ東京に近く、交通が便利だつたことが大きな発展要因です。別府のように周辺の農民や庶民が大勢やつて來たといひことはありません。東京や横浜などの都市住民に焦点を当てた戦略をとつたのが熱海で、経営的には一歩も二歩も先に進んでいました。

療養から観光へ

戦後の客の側の変化としては、高度成長期に団体でやつて來るよつになつた客は、療養ではないので泉質についてはあまり言わなくなりしました。食事や飲茶のために温泉に入らずに麻雀をやつて歸つた、といひ人がザラにいたわけです。そのころは、女性で「温泉地に行きたい」といひ人は少なかつたのです。

たのです。昭和30年代〜40年代初めには、温泉地はイコール「男性天国」といひ言葉があつたくらいです。

さらに、地元の行政もその流れを後押ししました。地元市町村には目的税として入湯税が入ります。つまり、たくさん人が來ることが重要なのです。県は料飲税がとれる。だから入り込み客数が重要で、環境を守るといひことにまで意識がいつていませんでした。

こつした客を見込んで、各温泉地でも自分の土地で温泉を掘るといひ乱掘が始まります。当然、周囲の湯量にも影響がでる。そこで温泉といひ資源を有効に守ろうといひ一つの方策として、集中管理方式が利用されるよつになつてきました。勝手に掘るのに任せていたら、湯量が確保できなくなつてしまふので、泉源のお湯を一旦一ヶ所に集めてから配湯し、効率的に使おうといひわけです。

例えは、下呂温泉は昔から湯量がそれほど多くなかつた所です。飛騨川の河原から湧出して、洪水も起こりやすい。天秤棒でお湯を担いで運ぶ「汲み湯」も行なわれていました。そこで、1960年代後半からは集中管理方式を導入します。当

然、温泉権を持つていた人との間には衝突もあつたでしょうが、今何をやるべきかといひ先見の明があり、しつかりと人々をまとめる力のあるリーダーに恵まれたために、集中管理方式が実現したのである。逆に、それができなくて衰退している所もあります。結局、温泉を守り続けることは、まちづくりと同じです。

集中管理方式では源泉を配湯しているだけで、そのお湯をどう使うかは宿の問題です。また、源泉を持つている宿も温泉の使用についての情報を客に示すことはなく、2004年、温泉偽装問題となつて表れたわけです。

温泉地を守る意識の欠如

バーデンバーデンでは、療養地として発展してきたといひ背景があるので、温泉地の周囲の森林を守り、泉質を維持するのは当然のことでした。加水するなど考えられません。それだけ、温泉の質、量を大事にしています。温泉は州が持つていて、個人が勝手に利用することも考えられません。

イタリアのピサとフィレンツェの間付近に、モンテカティニといひ温泉があります。こゝは飲泉で有名で、消化器病に

良いといひ源泉を私も飲んで見ましたが、冷たい塩水のようにでした。こゝの源泉は嚴重に囲われて守られていました。

日本でも、源泉間は何百メートル以内は掘つてはいけなといひ言われてきました。県によつて規制はばらばらです。国も積極的な保全策をとつていません。

さらに、1948年(昭和23年)に制定された温泉法も、源泉の湯が25度以上であるか、19の成分の内一つでもあれば温泉と定めています。しかし、利用者が浸かる浴槽の中の状態が、本当にその通りになつていひかどうかには一切触れていません。衛生面からのチェックをしていひだけです。多くの県の温泉担当部署は業務課であり、観光課はほとんど観光客を呼ぼうとして、両方間に緊密な連携がありません。こゝいう状態が、真の温泉地の発展を妨げているのです。

温泉地の適正規模

湯量が少ない所では、個別に内湯を持つてはななく、湯量が十分にある共同浴場を造ることで、温泉保養の効果を上げることを考えたいといひでしょう。客と地元とのふれあひも生まれますし、温泉町が栄えることにつながります。

神奈川県温泉地学研究所
ロビー展示より



温泉飲用の注意事項

1. 飲泉療養に際しては、温泉について専門的知識を有する医師の指導を受けることが望ましい
 2. 温泉の飲用1回の量は一般に100ml~200ml程度とし、その1日の量は概ね200ml~1000mlまでとする。
- 上記のほか、飲用については次の注意が必要。
1. 一般には食前30分~1時間が良い。
 2. 含鉄泉、放射能泉及び砒素又は沃素を含有する温泉は食後に飲用する。含鉄泉を飲用した直後には茶やコーヒー等を飲まない。
 3. 夕食後から就寝前の飲用はなるべく避けることが望ましい。

※参考資料
環境省自然保護局鉱泉分析法指針

例えば、城崎温泉の場合は、外湯の共同浴場が7つあって、訪れたお客さんもそこを利用していました。みんなが利用するということで、共同浴場は大事に使われていました。戦後、新たな場所から湯が出るようになって内湯がつかわれませんが、他の温泉地がどんどん大規模化していく中で、和風の落ち着いた温泉地を形成していった。その後、外湯巡りを核に歴史と景観を活かしたまちづくりを進めたところ、かえって成功したという経緯があります。

大分県久住山麓にある長湯温泉では、新設の共同浴場の横で農作物を販売したら、年間で数億円の売り上げを上げたといえます。「地域ぐるみ」というのはそういうことです。「温泉は自分のものだから絶対に手放さない」というのではなく、みんなで大切に使う

ことで、その価値を長く維持することを考えることも必要でしょう。それともう一つ大事なことは、温泉の量に見合った宿泊施設の収容力を考えるべきです。私は、収容人員一人当たりの温泉量が、毎分何リットルあるかを指標にすべきだと思っています。高度成長期に歓楽を目玉にしていた温泉地では、一人当たりになるとほんのわずかな湯量しかないところも多いのです。にもかかわらず、施設だけで商売してきたわけです。一応、専門家の間では、一人当たり毎分1リットルあることが、一応の基準になるだろうと考えられています。

そのためには、地域資源としての温泉量がどの程度あるのか、きちんと調査することが必要です。「足りなくなったらまた掘れば良い」というわけにはいきません。

多くの大温泉観光地は施設を重視して、先頭を切ってバス・トイレ付きの個室で客を呼び、今では、部屋ごとに露天風呂付きの宿もあるほどです。しかし、温泉地は持続して発展しなくてはなりません。そのための適正規模を考える必要があるのです。でも、その適正規模を判断するデータが源泉地の側には整っていない。ですから、温泉の実態をつかむための調整が必要

神奈川県温泉地学研究所ロビー展示より



温泉文化を維持できるか
今後、温泉地はどうなっていくのか。キーワードは保養でしょう。そのためには滞在しなければなりませんから、まず温泉旅館の料金を適正にする必要があります。また温泉表示はきちんと開示する、湯量が少ないなら少ないなりに工夫して大切に使う、といった努力も最低限の条件となります。

熊本県の黒川温泉が人気を集めている背景には、宿の主人たちの団結がありました。黒川温泉でもかつてはみんなばらばらで、宿泊客も年間5万人ほどしか入っていませんでした。宿の跡取りたちが現状を何とかしなくてはならないと悩んでいたところ、ある一軒の宿に急にお客さんが集まり始めました。それが洞窟風呂や露天風呂

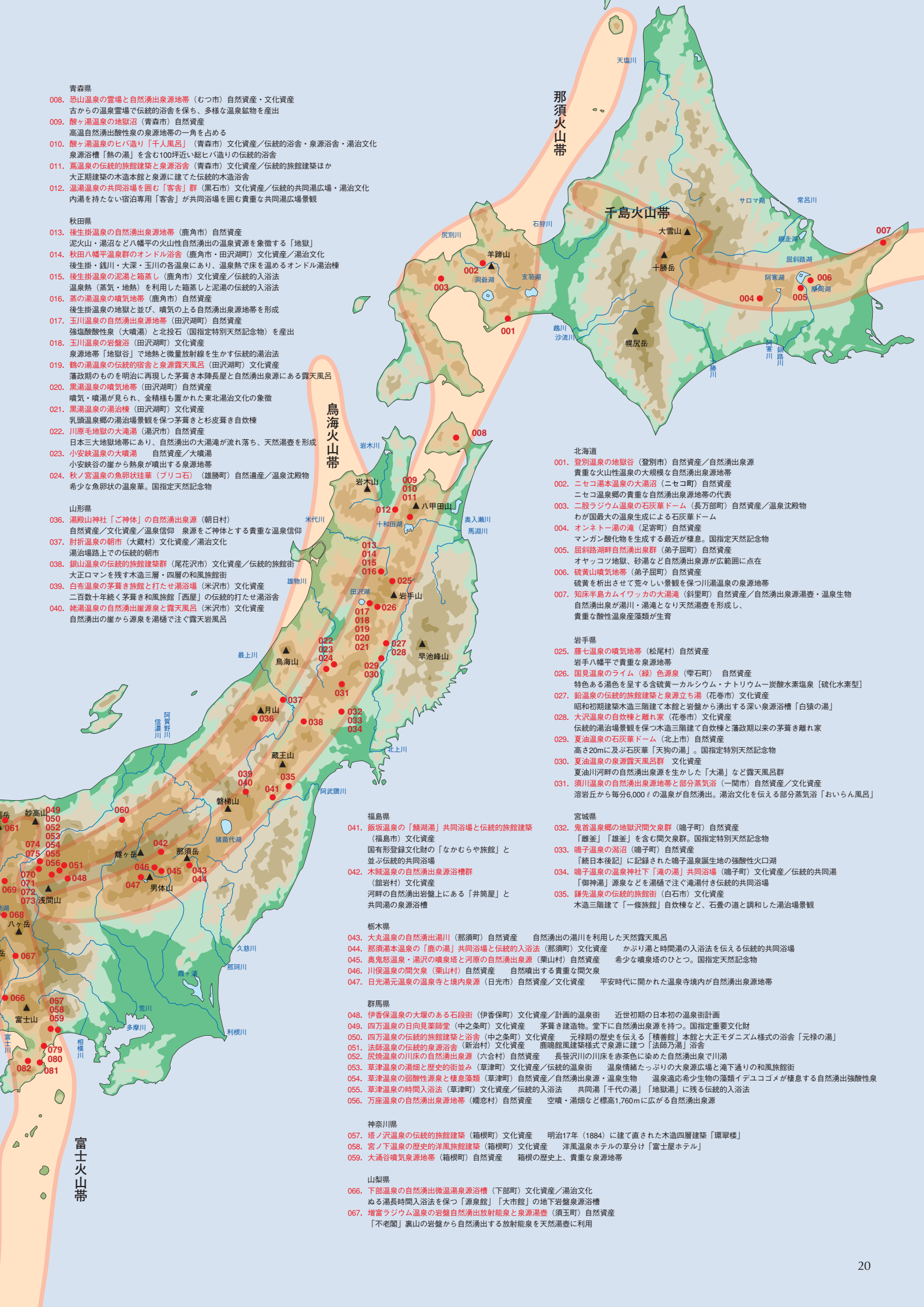
を備えた旅館でした。それで「露天風呂が自分たちの財産だ」と気づいたので。そして、小さくてもいいからそれぞれが個性のある露天風呂を造りました。お客には分散して入ってもらって、それが湯巡りとなったわけです。

ここで大事なことは、露天風呂を造れない宿も何軒かあったのですが、そういう人たちも巻き込んでいったことです。これまでは、露天風呂の宿だけがまとまっていたのですが、黒川では全旅館が参加したことで地域の一体感が生まれました。露天風呂のない宿に泊まっても、1200円払えば他3軒の宿の露天風呂を使えるようになりました。その入場手形は、スキの間伐材を使って老人会が作っています。これだけで年間1000万円近い収入になるそうです。それまで年1回であった旅館組合の会合も、毎月1回行ない、女将の会も生まれました。そういう努力が成功の裏にあるのです。

ところが、全国の他の温泉地に「まちが一緒になって温泉を守ろう」というても、なかなか一つにまとまりません。温泉の所有者や宿の経営者が一国一城の主で、「後継者がいなくなったらおしまい」という温泉地が多すぎると思います。

温泉地は、全国に3100も分





青森県

- 008. 恐山温泉の雪場と自然湧出泉源地帯 (むつ市) 自然資産・文化資産
古からの温泉雪場で伝統的浴舎をもち、多様な温泉鉱物を産出
- 009. 酸ヶ湯温泉の地獄沼 (青森市) 自然資産
高温自然湧出酸性泉の泉源地帯の一角を占める
- 010. 酸ヶ湯温泉のヒバ遣い「千人風呂」 (青森市) 文化資産／伝統的浴舎・泉源浴舎・湯治文化
泉源浴槽「熱の湯」を含む100坪近い総ヒバ遣りの伝統的浴舎
- 011. 高温温泉の伝統的旅館建築と泉源浴舎 (青森市) 文化資産／伝統的旅館建築ほか
大正期建築の木造本館と泉源に建てた伝統的木造浴舎
- 012. 湯湯温泉の共同浴場を囲む「客舎」群 (黒石市) 文化資産／伝統的共同湯広場・湯治文化
内湯を持たない宿泊専用「客舎」が共同浴場を囲む貴重な共同湯広場景観

秋田県

- 013. 後生掛温泉の自然湧出泉源地帯 (鹿角市) 自然資産
泥火山・湯沼など八幡平の火山性自然湧出の温泉資源を象徴する「地獄」
- 014. 秋田八幡平温泉群のオンドル浴舎 (鹿角市・田沢湖町) 文化資産／湯治文化
後生掛・銭川・大深・玉川の各温泉にあり、温泉熱で床を温めるオンドル湯治棟
- 015. 後生掛温泉の泥湯と箱蒸し (鹿角市) 文化資産／伝統的入浴法
温泉熱(蒸気・地熱)を利用した箱蒸しと泥湯の伝統的入浴法
- 016. 蒸の湯温泉の噴気地帯 (鹿角市) 自然資産
後生掛温泉の地獄と並び、噴気の上る自然湧出泉源地帯を形成
- 017. 玉川温泉の自然湧出泉源地帯 (田沢湖町) 自然資産
強塩酸性泉(大噴湯)と北投石(国指定特別天然記念物)を産出
- 018. 玉川温泉の岩盤浴 (田沢湖町) 文化資産
泉源地帯「地獄谷」で地熱と微量放射線を生かす伝統的湯治法
- 019. 鶴の湯温泉の伝統的宿舎と泉源露天風呂 (田沢湖町) 文化資産
藩政期のものを明治に再現した茅葺き本陣長屋と自然湧出泉源にある露天風呂
- 020. 黒湯温泉の噴気地帯 (田沢湖町) 自然資産
噴気・噴湯が見られ、全精様も置かれた東北湯治文化の象徴
- 021. 黒湯温泉の湯治棟 (田沢湖町) 文化資産
乳頭温泉郷の湯治場景観を保つ茅葺きと杉皮葺き自炊棟
- 022. 川原毛地獄の大湯湯 (湯沢市) 自然資産
日本三大地獄地帯にあり、自然湧出の大湯湯が流れ落ち、天然湯壺を形成
- 023. 小安峡温泉の大噴湯 自然資産／大噴湯
小安峡谷の崖から熱湯が噴出する泉源地帯
- 024. 秋ノ宮温泉の魚卵状珪華(フリコ石) (雄勝町) 自然遺産／温泉沈殿物
希少な魚卵状の温泉華。国指定天然記念物

山形県

- 036. 湯殿山神社「ご神体」の自然湧出泉源 (朝日村) 自然資産／文化資産／温泉信仰
泉源をご神体とする貴重な温泉信仰
- 037. 肘折温泉の朝市 (大蔵村) 文化資産／湯治文化
湯治場路上での伝統的朝市
- 038. 銀山温泉の伝統的旅館建築群 (尾花沢市) 文化資産／伝統的旅館街
大正ロマンを残す木造三層・四層の和風旅館街
- 039. 白布温泉の茅葺き旅館と打たせ湯浴場 (米沢市) 文化資産
二百数十年続く茅葺き和風旅館「西屋」の伝統的打たせ湯浴舎
- 040. 純湯温泉の自然湧出泉源と露天風呂 (米沢市) 文化資産
自然湧出の崖から源泉を湯桶で注ぐ露天風呂

鳥海火山帯

- 001. 登別温泉の地獄谷 (登別市) 自然資産／自然湧出泉源
貴重な火山性温泉の大規模な自然湧出泉源地帯
- 002. ニセコ湯本温泉の大湯湯 (ニセコ町) 自然資産
ニセコ温泉郷の貴重な自然湧出泉源地帯の代表
- 003. 二股ラジウム温泉の石灰華ドーム (長万部町) 自然資産／温泉沈殿物
わが国最大の温泉生成による石灰華ドーム
- 004. オンネトー湯の滝 (足寄町) 自然資産
マンガン酸化物を生成する最近が様息。国指定天然記念物
- 005. 屈斜路湖畔自然湧出泉群 (弟子屈町) 自然資産
オヤクソ地獄、砂湯など自然湧出泉源が広範囲に点在
- 006. 硫黄山噴気地帯 (弟子屈町) 自然資産
硫黄を析出させて荒々しい景観を保つ川湯温泉の泉源地帯
- 007. 知床半島カムイワッカの大湯湯 (斜里町) 自然資産／自然湧出泉源湯壺・温泉生物
自然湧出が湯川・湯滝となり天然湯壺を形成し、
貴重な酸性温泉産物が生育
- 008. 岩手山
- 009. 八甲田山
- 010. 奥入瀬川
- 011. 馬淵川
- 012. 十和田湖
- 013. 岩手山
- 014. 田沢湖
- 015. 岩手山
- 016. 岩手山
- 017. 岩手山
- 018. 岩手山
- 019. 岩手山
- 020. 岩手山
- 021. 岩手山
- 022. 岩手山
- 023. 岩手山
- 024. 岩手山
- 025. 岩手山
- 026. 岩手山
- 027. 岩手山
- 028. 岩手山
- 029. 岩手山
- 030. 岩手山
- 031. 岩手山
- 032. 岩手山
- 033. 岩手山
- 034. 岩手山
- 035. 岩手山
- 036. 岩手山
- 037. 岩手山
- 038. 岩手山
- 039. 岩手山
- 040. 岩手山
- 041. 岩手山
- 042. 岩手山
- 043. 岩手山
- 044. 岩手山
- 045. 岩手山
- 046. 岩手山
- 047. 岩手山
- 048. 岩手山
- 049. 岩手山
- 050. 岩手山
- 051. 岩手山
- 052. 岩手山
- 053. 岩手山
- 054. 岩手山
- 055. 岩手山
- 056. 岩手山
- 057. 岩手山
- 058. 岩手山
- 059. 岩手山
- 060. 岩手山
- 061. 岩手山
- 062. 岩手山
- 063. 岩手山
- 064. 岩手山
- 065. 岩手山
- 066. 岩手山
- 067. 岩手山
- 068. 岩手山
- 069. 岩手山
- 070. 岩手山
- 071. 岩手山
- 072. 岩手山
- 073. 岩手山
- 074. 岩手山
- 075. 岩手山
- 076. 岩手山
- 077. 岩手山
- 078. 岩手山
- 079. 岩手山
- 080. 岩手山
- 081. 岩手山

福島県

- 041. 飯坂温泉の「騎湯湯」共同浴場と伝統的旅館建築 (福島市) 文化資産
国有形登録文化財の「なかむらや旅館」と並び伝統的共同湯場
- 042. 木賊温泉の自然湧出泉源浴槽群 (鉾田村) 文化資産
河畔の自然湧出岩盤上にある「井筒屋」と共同湯の泉源浴槽

栃木県

- 043. 大丸温泉の自然湧出湯川 (那須町) 自然資産
自然湧出の湯川を利用した天然露天風呂
- 044. 那須湯本温泉の「鹿の湯」共同浴場と伝統的入浴法 (那須町) 文化資産
かぶり湯と時間湯の入浴法を伝える伝統的共同湯場
- 045. 奥鬼怒温泉・湯沢の噴気塔と河原の自然湧出泉源 (栗山村) 自然資産
希少な噴気塔のひとつ。国指定天然記念物
- 046. 川俣温泉の間欠泉 (栗山村) 自然資産
自然噴出する貴重な間欠泉
- 047. 日光湯元温泉の温泉寺と境内泉源 (日光市) 自然資産／文化資産
平安時代に開かれた温泉寺境内が自然湧出泉源地帯

群馬県

- 048. 伊香保温泉の大堰のある石段街 (伊香保町) 文化資産／計画的温泉街
近世初期の日本初の温泉街計画
- 049. 四方温泉の日向見薬師堂 (中之条町) 文化資産
茅葺き建造物。堂下に自然湧出泉源を持つ。国指定重要文化財
- 050. 四方温泉の伝統的旅館建築と浴舎 (中之条町) 文化資産
元禄期の歴史を伝える「積善館」本館と大正モダニズム様式の浴舎「元禄の湯」
- 051. 法師温泉の伝統的泉源浴舎 (新治村) 文化資産
鹿鳴館風建築様式で泉源に建つ「法師湯」浴舎
- 052. 尻焼温泉の川床の自然湧出泉源 (六合村) 自然資産
長笹沢川の川床を赤茶色に染めた自然湧出泉源で川湯
- 053. 草津温泉の湯畑と歴史的街並み (草津町) 文化資産／伝統的温泉街
温泉情緒たっぷりの大泉源広場と滝下通りの和風旅館街
- 054. 草津温泉の弱酸性温泉と棲息藻類 (草津町) 自然資産／自然湧出泉源・温泉生物
温泉適応希少生物の藻類イデコゴメが棲息する自然湧出強酸性泉
- 055. 草津温泉の時間入浴法 (草津町) 文化資産／伝統的入浴法
共同湯「千代の湯」「地獄湯」に残る伝統的入浴法
- 056. 万座温泉の自然湧出泉源地帯 (嬋恋村) 自然資産
空湯・湯畑など標高1,760mに広がる自然湧出泉源

神奈川県

- 057. 塔ノ沢温泉の伝統的旅館建築 (箱根町) 文化資産
明治17年(1884)に建て直された木造四層建築「環翠楼」
- 058. 宮ノ下温泉の歴史的洋風旅館建築 (箱根町) 文化資産
洋風温泉ホテルの草分け「富士屋ホテル」
- 059. 大涌谷噴気泉源地帯 (箱根町) 自然資産
箱根の歴史上、貴重な泉源地帯

山梨県

- 066. 下部温泉の自然湧出微温湯泉源浴槽 (下部町) 文化資産／湯治文化
ぬる湯長時間入浴法を保つ「源泉館」「大市館」の地下温泉源浴槽
- 067. 増富ラジウム温泉の岩盤自然湧出放射能と泉源湯壺 (須玉町) 自然資産
「不老閣」裏山の岩盤から自然湧出する放射能を天然湯壺に利用

那須火山帯

千島火山帯

北海道

- 001. 登別温泉の地獄谷 (登別市) 自然資産／自然湧出泉源
貴重な火山性温泉の大規模な自然湧出泉源地帯
- 002. ニセコ湯本温泉の大湯湯 (ニセコ町) 自然資産
ニセコ温泉郷の貴重な自然湧出泉源地帯の代表
- 003. 二股ラジウム温泉の石灰華ドーム (長万部町) 自然資産／温泉沈殿物
わが国最大の温泉生成による石灰華ドーム
- 004. オンネトー湯の滝 (足寄町) 自然資産
マンガン酸化物を生成する最近が様息。国指定天然記念物
- 005. 屈斜路湖畔自然湧出泉群 (弟子屈町) 自然資産
オヤクソ地獄、砂湯など自然湧出泉源が広範囲に点在
- 006. 硫黄山噴気地帯 (弟子屈町) 自然資産
硫黄を析出させて荒々しい景観を保つ川湯温泉の泉源地帯
- 007. 知床半島カムイワッカの大湯湯 (斜里町) 自然資産／自然湧出泉源湯壺・温泉生物
自然湧出が湯川・湯滝となり天然湯壺を形成し、
貴重な酸性温泉産物が生育
- 025. 藤七温泉の噴気地帯 (松尾村) 自然資産
岩手八幡平で貴重な泉源地帯
- 026. 国見温泉のライム(緑)色源泉 (幸石町) 自然資産
特色ある湯色を呈する含硫黄-カルシウム・ナトリウム-炭酸水素塩泉【硫化水素型】
- 027. 鉛温泉の伝統的旅館建築と泉源立ち湯 (花巻市) 文化資産
昭和初期建築木造三階建て本館と岩盤から湧出する深い泉源浴槽「白狼の湯」
- 028. 大沢温泉の自炊棟と離れ家 (花巻市) 文化資産
伝統的湯治場景観を保つ木造三階建て自炊棟と藩政期以来の茅葺き離れ家
- 029. 夏油温泉の石灰華ドーム (北上市) 自然資産
高さ20mに及ぶ石灰華「天狗の湯」。国指定特別天然記念物
- 030. 夏油温泉の泉源露天風呂群 文化資産
夏油川河畔の自然湧出泉源を生かした「大湯」など露天風呂群
- 031. 須川温泉の自然湧出泉源地帯と部分蒸気浴 (一関市) 自然資産／文化資産
溶岩丘から毎分6,000Lの温泉が自然湧出。湯治文化を伝える部分蒸気浴「おいらん風呂」

宮城県

- 032. 鬼首温泉郷の地獄沢間欠泉群 (鳴子町) 自然資産
「雌釜」「雄釜」を含む間欠泉群。国指定特別天然記念物
- 033. 鳴子温泉の湯沼 (鳴子町) 自然資産
「続日本後記」に記録された鳴子温泉誕生地の強酸性火口湖
- 034. 鳴子温泉の温泉神社下「滝の湯」共同浴場 (鳴子町) 文化資産／伝統的共同湯
「御神湯」源泉などを湯桶で注ぐ湯滝付き伝統的共同湯場
- 035. 鎌先温泉の伝統的旅館街 (白石市) 文化資産
木造三階建て「一條旅館」自炊棟など、石畳の道と調和した湯治場景観

富士火山帯

日本温泉地域資産 (日本温泉地域学会選定：2004年9月)

日本の温泉の自然と文化を守り後世に伝えるためにも、これから地域の発展に活かすべき資産という視点で、日本温泉地域学会が選んだ。火山帯は編集部が重ねた。

- 鳥根県**
 - 091. 湯村温泉(出雲)の歴史的川床自然湧出泉源(木次町) 自然資産
『出雲国風土記』に記された川床の自然湧出泉源遺跡
 - 092. 玉造温泉の玉作湯神社と歴史的町並み(玉湯町) 文化資産・温泉神社・伝統的温泉街
『出雲国風土記』に記された古湯の歴史を伝える玉湯川沿いの和風旅館街
 - 093. 温泉津温泉の「元湯」共同浴場と歴史的町並み(温泉津町) 文化資産/伝統的共同湯・温泉街
大森(岩見)銀山の積出港として、中世以来の歴史と情緒を保持。重要伝統的建造物群保存地区に指定
 - 094. 有福温泉の「御前湯」共同浴場と伝統的温泉街(江津市) 文化資産
共同湯3軒のうち「御前湯」を核に、赤い石州瓦屋根旅館が階段状に並び
- 佐賀県**
 - 098. 武雄温泉の「蓬菜門」と「殿様湯」を持つ共同浴場(武雄町) 文化資産/伝統的共同湯・浴槽
鍋島藩主愛用の「殿様湯」浴槽が残る樓門付共同浴場
- 長崎県**
 - 099. 雲仙温泉の「地獄」自然湧出泉源地帯(小浜町) 自然資産
キリシタン弾圧に利用され、伝統的共同湯がある雲仙地獄
- 熊本県**
 - 100. 地獄温泉の天然泥湯(長陽村) 文化資産/伝統的入浴法
湧き出る温泉泥利用の伝統的泥湯を保つ「すずめの湯」
 - 101. 岳の湯・はげの湯温泉の噴気地帯(小国町) 自然資産
湧き山麓集落の軒先や田圃から噴気が上る泉源地帯
- 大分県**
 - 102. 鉄輪温泉の「地獄」群(別府市) 自然資産
別府温泉郷の歴史的泉源地帯で、世界的に貴重な地獄が数多く存在
 - 103. 鉄輪温泉の湯煙景観と伝統的温泉街(別府市) 文化資産
湯煙が上り、「蒸し湯」や「地獄蒸しかまど」を持ち、「入湯賃間」が並ぶ温泉街
 - 104. 明善温泉の天然泥湯(別府市) 文化資産
温泉泥泉源を利用した泥湯入浴法
 - 105. 明善温泉の明善採取小屋(別府市) 文化資産/温泉利用形態
江戸期以来の伝統的明善採取法
 - 106. 鉄輪温泉の青色染色泉源(別府市) 自然資産/貴重な泉源
「神和苑」の青色を呈する自然湧出泉
 - 107. 別府温泉の「竹瓦温泉」共同浴場(別府市) 文化資産
明治以来の伝統的共同湯で、建物は昭和13年(1938)に改築。砂湯もできる
 - 108. 塚原温泉の泉源地帯(湯布院町) 自然資産
pH1.4の強酸性含鉄硫酸塩泉が伽藍岳山腹から噴出
 - 109. 湯布院温泉の金鱗湖と「下ん湯」共同浴場(湯布院町) 自然資産/文化資産
湧泉の地だった湯布院温泉の原点を保つ自然湧出泉の湯池と伝統的共同湯
 - 110. 湯平温泉の伝統的石畳湯(湯布院町) 文化資産/計画的温泉地
江戸時代から整備が始まった石畳の坂道が続く湯治場景観
 - 111. 湯平温泉の伝統的飲泉文化(湯布院町) 文化資産/湯治文化
四方温泉と並ぶ東西「胃腸の湯」の伝統的飲泉文化
 - 112. 長湯温泉の自然湧出ラムネ泉(直入町) 自然資産
約920mgほどの炭酸ガスを含む31℃の自然湧出炭酸水素源泉
 - 113. 長湯温泉の「温泉マリモ」(球状石灰華) (直入町) 自然資産
温泉成分が凝固したユニークな球状石灰華
 - 114. 長湯温泉の「御前湯」共同浴場と伝統的飲泉文化(直入町) 文化資産
昭和初期からの飲泉文化を核に、今日的に再現された伝統的共同浴場
 - 115. 塚野温泉の伝統的飲泉文化と飲泉所(大分市) 文化資産
炭酸ガスを含む炭酸水素温泉を飲用する飲泉所「霊泉堂」
 - 116. 七里田温泉の「下湯」共同浴場の自然湧出ラムネ泉(久住町) 自然資産
36℃の炭酸水素温泉は含有重943mgの炭酸ガスで湯がはじけ、肌に気泡が付く
 - 117. 寒ノ地獄温泉の泉源冷泉浴(九重町) 文化資産/伝統的入浴法
久住山中の泉源浴槽で夏場のみ行われる13℃の硫黄泉冷泉浴
 - 118. 筋湯温泉の共同浴場の打たせ湯(九重町) 文化資産/伝統的入浴法
何れも細い湯湯を持つ伝統的共同湯
- 鹿児島県**
 - 119. 新湯温泉の伝統的湯治湯(牧園町) 文化資産
白濁の硫化水素臭を利用した皮膚病に良い湯治場の景観
 - 120. 栗野岳温泉の八幡大地獄と自然湧出泉源(栗野町) 自然資産/文化資産
八幡大地獄を泉源地帯に4種類の泉質と蒸し風呂、泥湯など伝統的入浴法
 - 121. 指宿温泉の摺ヶ浜海岸の高温自然湧出泉源地帯と天然砂蒸し(指宿市) 自然資産/文化資産
砂浜や波打ち際からの高温自然湧出泉で、砂湯に利用
 - 122. 山川伏目砂蒸し温泉の高温自然湧出泉源地帯と天然砂蒸し(山川町) 自然資産/文化資産
竹山崖下海岸の高温地熱の砂浜で、砂湯に利用
 - 123. 鏡温泉の蒸気噴気蒸しかまど「スメ」(山川町) 文化資産/温泉利用形態
90℃前後の高温の蒸気・噴気口にすえた「スメ」で蒸気かまどに利用
 - 124. 薩摩硫黄島海岸の自然湧出泉源地帯(三島村) 自然資産
海中温泉を含み、海を变色させる自然湧出泉源
- その他**
 - 125. 江戸・明治時代に作成された温泉番付文化資産
江戸期以降「諸国温泉功能鑑」として各地で作成

- 新潟県**
 - 060. 栃尾又温泉の微温湯長時間入浴法(湯之谷村) 文化資産/湯治文化
約37℃のぬる湯の放射能泉に「長湯」する伝統的湯治法
 - 061. 蓮華温泉の自然湧出泉源地帯(糸魚川市) 自然資産
白馬連峰標高1,500mの噴気地帯から4種類の泉質が自然湧出
- 富山県**
 - 062. みくりが池温泉の噴気泉源地帯(立山町) 自然資産
『今昔物語』に記され、日本最高所2,450mのみくりが池温泉の湯元
 - 063. 立山温泉の新湯産出球状オパール「玉滴石」(立山町) 自然資産
高温の湯池から産出する希少な球状珪華沈殿物
- 石川県**
 - 064. 岩間温泉の噴気塔群(尾口村) 自然資産
白山麓にある高さ10mに及び噴気塔。国指定特別天然記念物
 - 065. 山中温泉の「菊の湯」共同浴場広場(山中町) 文化資産/伝統的共同湯広場
共同湯の総湯「菊の湯」を核に発展した温泉地の原型
- 長野県**
 - 068. 上諏訪温泉の「片倉館」(諏訪市) 文化資産
昭和初期の温泉文化を伝える昭和3年(1928)のレンガ造り洋風建築と深い浴槽
 - 069. 鹿教湯温泉の湯坂と文殊堂(丸子町) 文化資産/伝統的湯治場景観
閑静な鹿教湯温泉の代表的な湯治場景観
 - 070. 山田温泉の「大湯」共同浴場(高山村) 文化資産
伝統的な共同浴場建築様式
 - 071. 洗温泉の石畳温泉街(山ノ内町) 文化資産
木造旅館や共同湯が並ぶ伝統的温泉街
 - 072. 地獄谷温泉の天然噴泉(山ノ内町) 自然資産
活動を続ける希少な噴泉。国指定天然記念物
 - 073. 地獄谷温泉の野生ニホンザル入浴風景(山ノ内町) 文化資産/野生動物の温泉利用生態
野猿公園を中心に湯浴み習慣を持つニホンザルの貴重な生態
 - 074. 野沢温泉の「麻生」泉源地帯(野沢温泉村) 自然資産/文化資産/伝統的温泉利用
野沢組・湯仲間が守る自然湧出泉源の中心。野沢菜を茹でる生活風景
 - 075. 野沢温泉「大湯」共同浴場(野沢温泉村) 文化資産
13ヶ所ある共同湯の中心。江戸の湯屋建築を再現
 - 076. 白濁温泉の噴湯丘と球状石灰華(安曇村) 自然資産
湯川上流の温泉噴孔から球状石灰華を産出。国指定特別天然記念物
 - 077. 中房温泉の膠状珪華と珪華を産する自然湧出泉源地帯(穂高町) 自然資産
高温自然湧出泉から希少な温泉沈殿物を産出。国指定天然記念物
 - 078. 湯沢温泉の噴湯丘と球状石灰華(大町市) 自然資産
希少な形態の石灰華を産出。国指定天然記念物
- 静岡県**
 - 079. 熱海温泉の湯前神社と大湯間欠泉跡(熱海市) 文化資産/温泉神社・歴史的泉源
温泉神社の湯前神社とかつて主泉源だった社前の大湯間欠泉跡
 - 080. 熱海温泉の「起雲閣」(熱海市) 文化資産/洋風建築
昭和7年(1932)建築の洋館で旧温泉旅館。熱海市文化財
 - 081. 伊東温泉松川河畔の伝統的旅館群(伊東市) 文化資産
軒を並べる瓦屋根の木造三階建てや四層の和風旅館景観
 - 082. 修善寺温泉の「独鈷」の湯と伝統的旅館街(修善寺町) 文化資産
伝統的温泉街景観を保つ桂川河畔の「独鈷の湯」と周辺旅館群
- 兵庫県**
 - 083. 有馬温泉の歴史的源泉(西宮市) 自然資産/貴重な泉源
全泉・銀泉で知られる含鉄・ナトリウム塩化物強塩泉や自然湧出二酸化炭素泉
 - 084. 有馬温泉の歴史的街並み(西宮市) 文化資産
温泉寺・温泉神社・天閣秀吉湯山御殿跡跡を含む温泉街の歴史的街並み
 - 085. 有馬温泉の入初式(西宮市) 文化資産/温泉祭事
開湯伝説の行基と12坊を開いた仁心上人をしのび、江戸時代から続く温泉祭事
 - 086. 城崎温泉の伝統的温泉街(城崎町) 文化資産/計画的温泉地
大正14(1925)の火災後、大浴川沿いに温泉地づくりがなされた温泉町並みの景観
 - 087. 湯村温泉の「完湯」(温泉町) 自然資産
98℃で自然湧出する歴史的泉源。生活利用される
- 和歌山県**
 - 088. 川湯温泉の大塔川中の自然湧出泉源(本宮町) 自然資産
大塔川川底から自然湧出する70℃以上の単純温泉で川湯
 - 089. 湯の峰温泉の「つば湯」と「湯筒」(本宮町) 文化資産/温泉信仰・じか湯き浴槽・歴史的温泉利用形態
熊野詣での湯離湯場。自然湧出泉源浴槽「つば湯」は中世の説教「小栗判官」の舞台
 - 090. 龍神温泉の伝統的旅館建築「上御殿」(竜神村) 文化資産
日高川渓谷の紀州藩の湯治場景観を保持

